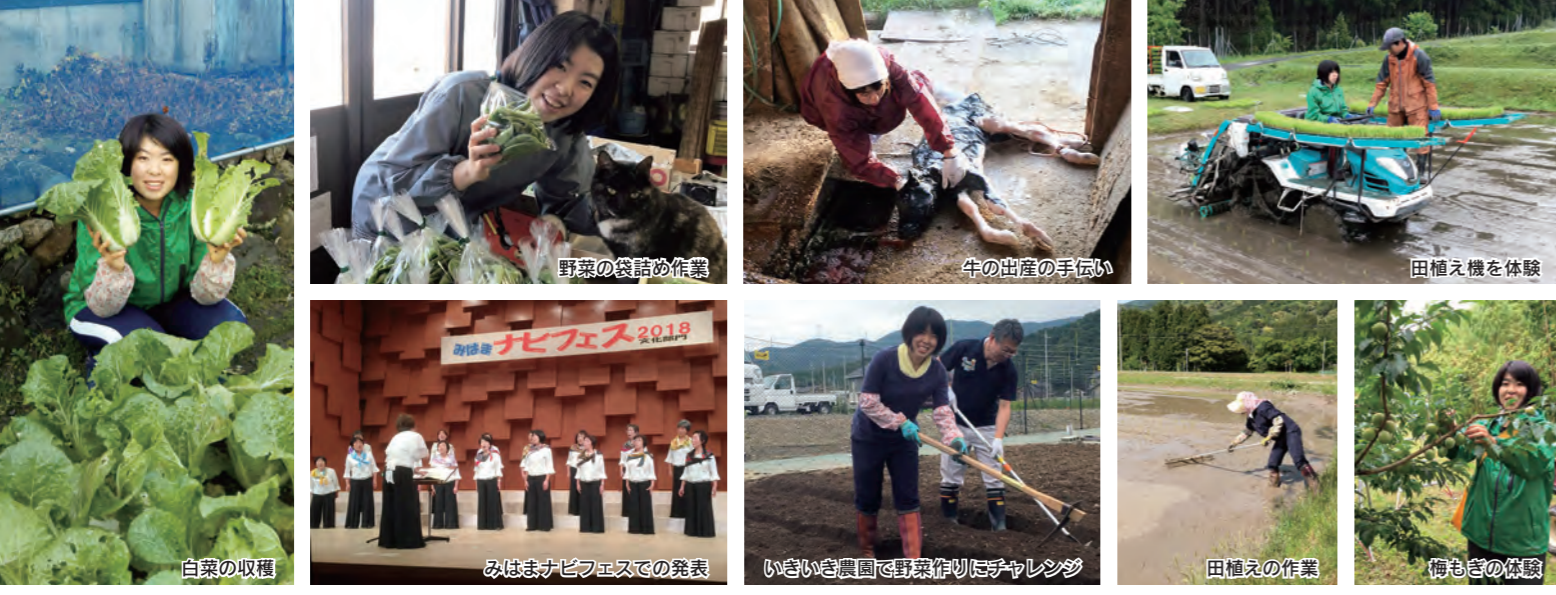


緑のふるさと協力隊活動報告

～「そと」から見た美浜～



こんにちは、みなさん。私のことを覚えていらっしゃるでしょうか？昨年の4月から緑のふるさと協力隊としてボランティア活動をしていました舩水良子です。
この1年間、私が美浜町で体験したことや感じたことを報告します。

緑のふるさと協力隊
みずみず 良子 さん

● 農作業を体験して良かったこと

以前よりも食べ物大切に思えるようになりました。実際に体験して、農家の方の話を聞いていると、米や野菜、牛乳等をいただく時に、その農家の方の顔が浮かびます。「こんな作業したなあ」とか「大変だったなあ」と思い出し、食べ物を大切にいただこうという気持ちになりました。それは、お世話になった農家の方だけではなく、例えばスーパーでの買い物でも、産地や名前を見て、どこかの農家の方が一生懸命作られたものなのだと思います。カゴに入れるようになりました。

● 野菜作りチャレンジ

畑をお借りして、自分でも野菜作りに挑戦し、夏はトマトやきゅうり、なす、ピーマン、パクチヨイ、モロヘイヤ、とうもろこしを作り、冬にはミニ白菜やほうれん草、水菜、小松菜を作ってみました。とうもろこしと冬野菜の畑は、土づくりからやりました。「土がええとええもんが取れる」と農家の方がおっしゃっていたので、その部分を体験できたことはとても勉強になりました。嬉しかったです。

土づくり一つとっても、面積を測り肥料の量を計算しなければならず、やはりどの作業も簡単ではない

● 緑のふるさと協力隊について

緑のふるさと協力隊は、地域の方と一緒にさまざまな活動をする中で、地域の活性化のお手伝いをする制度です。

私が協力隊になろうと思った一番の理由は、農業をやってみたくて、それから、昨年の4月に神奈川県から美浜町にやってきました。

● 1年間の活動の中で特に印象深かったものについて

美浜町には米や野菜、果樹、花き、酪農、肥育、漁業等の産業があり、それらを幅広く経験させていただきました。米では田植えから稲刈りまで、花きや野菜は土づくりから出荷まで、酪農は牛の出産のお手伝いもさせていただきました。まだ人の出産も見たことがなかったので、生まれたての子牛の温かい体温は今でもこの手に残っているほど印象深い経験でした。

農業は体験でしかやったことがなく、知識や技術等は何もなかったのですが、あんなに小さい種から作物ができることや、野菜が口に入るまで多くの手間がかかっていること、そしてなにより農家の方が、自分で育てたものを我が子のように愛情を注いでいること等、すべてのことが新鮮でした。種をまいたら何もしなくても収穫できるとは思っていませんでした。

● 美浜町に1年間滞在して感じた美浜町のことについて

わずか1年でしたが、私が美浜に来ていいなあ、素敵だなあと感じたことを報告します！

● 好きなこと「コーラス」

イベントに参加すると手作りのドライフラワーやエプロンを出店されている方をよく目にしました。その他にも生け花や着付け、茶道等、多くの方が仕事以外にも自分の好きなことをする時間（趣味）を持っていることに驚きました。

私は合唱が好きでしたが、高校を卒業してから合唱をする機会もなくなりました。もうできないだろうと思っていました。すると、コーラスアザレアの方が「一緒に歌いませんか」と家に来られ、それから練習に参加することになり、みはまナビフェス文化部門では発表もさせていただきました。舞台に立つまでは緊張していましたが、いざ舞台に立つと、笑顔になり

したが、いざ経験してみると収穫までの作業がかなりあって、それも機械でできることもあれば、手作業でしかできないところもあって：想像よりも地道で、手間がかかる作業ばかりでした。「手をかけたらかけた分だけ応えてくれる」という農家さんの言葉が印象に残っています。

● 大変だった作業や好きな作業

一番大変だった作業は、しゃがんでする作業でした。今まで長時間しゃがみながら何かをすることがなかったのですが、草取りや背の低い作業は慣れるまで大変でした。今では、だんだんと慣れてきたのか、無心でできる草取りが大好きです。

また、農作業はどれも楽しかったのですが、その中でも特に袋詰め作業が好きでした。この作業は、農家の方がたくさんのお手間と愛情を注いで我が子のように育てたものを、虫や傷はないかと確認をして綺麗な形で送り出す最後の作業です。

「買う人の気持ちになって売らなあかん」と、ある農家の方がおっしゃっていました。多くの方が同じものを買うなら綺麗なものを買いたいと思うので、なるべく農家さんの思いが一人でも多くの買い手に届くように、どの作業よりも気を使いました。農家さんと買う人を繋ぐ作業である袋詰めは好きです！

不思議なことに、たとえ音程を間違えても自然と笑顔になり、背中や風船がついているかのようにな気分になります。「やつぱり、みんなで歌うことが好きだなあ」と改めて実感しました。

自分の好きなことが分かり、それができている時がこんなにも楽しいと改めて感じました。だから、美浜町の多くの方が自分の好きなことをする時間を持っていることが素敵だと思いました！

これから仕事や新生活をしていく中で、なかなか趣味の時間が持てないかもしれないですが、自分は合唱が好きだということを忘れずに、またどこかで合唱をしたいと思いました！

● 祭りと「つながり」

私の住んでいたところは、これといった地域のお祭り等はありませんでしたが、たくさんのお祭りがあるところが素敵だと思いました。全部は見られませんでしたが、彌美神社の大きな祭りから、八朔祭等の各地域のお祭りまで、いくつか見させてくださいました。

その中でも個人的に好きなのが、早瀬の「子ども歌舞伎」です。子どもの小さな口から出る真つ直ぐな声と、「タンタカタカタカタカタカタン」のメロディーが耳に残ってい

て、それに合わせて舞う子どもたちの姿が印象的でした。

どの祭りも共通していることは、そこに住んでいる方々が集まっていること。皆さんにとっては当たり前なのかもしれませんが、都会だと近くに誰が住んでいるかは大体分かっていても話をするのは少なく、私にとって初めての経験でした。

私が住んでいた佐野区では、祭りではありませんが、パーベキューが心に残っています。みんなが集まり、顔を合わせて話をしている、同じ集落の人が一つの家族のように見ええました。準備等、大変なことも多いと思いますが、たくさんのお祭りがある美浜町は素敵だと思います！

●思いやりと温かさ

3つ目は、人です！私はずっと田舎暮らしに慣れていました。「自然の中で、のんびりと暮らしたい」と思いながらも、よそ者を受け入れてもらえるだろうかという不安もありました。

それは美浜に来る時も同じ気持ちでした。でも、美浜の方は「よう来たな！」と言ってくれる方や「ウェルカム美浜！」とハイタッチしてくれる方もいて、それは協力隊の始まりから終わりまで変わらず、温かく迎えてくれました。

1年間美浜にいて、一番感じたこと



佐野婦人会の皆さん



ワカメの天日干し



花作業



佐野の野菜農家の方



子育て支援センターでお手伝い



木野みそグループの皆さん

と、伝えたいことは「美浜の人は温かい心をもっている方がたくさんいる」ということです。夜道は暗いから懐中電灯を持たせていただいたり、狭い道では当たり前のように道を譲っていただいたり、車ですれ違う時に対向車の運転手が知り合いだと挨拶をしたり。都会は人が多く、電車では多くの人が一人なので、私も「誰か友達いるかなあ」なんて探すことはあまりありませんでした。

『お母さんの落し物』

ここで一つエピソードを。

ある野菜の直売所で、買い物物をして来たお母さん。野菜を選んで、お会計をしようと千円札を渡そうとすると「あれ〜」と排水溝に千円札が吸い込まれてしまいました。溝から覗いてみたけれど、取るのはなかなか難しそう。さあどうしよう。棒で突いてみたけど取れません。最終手段で排水蓋を持ち上げようとなります

が、これが重たい重たい。すると、「これはどうや」と道具を持ってくるお父さん。「みんなでこを持ち上げてせーの〜！」と、無事に千円札はお母さんのもとに帰ってきました。私は「良かったあ」と安堵し周りを見ると、いつの間にか人がたくさん集まっていた。一人の落とし物をどうにかして取ってあげようと集まる、みなさんの温かい思いに、私も温かくなりました。

●美浜を誇りに思っている

私が出会った多くの方が「美浜はええところだよ！」と言われます。自分の住んでいるところを誇りに思い、それを他の人に言えるというのはなかなかできないことだと思います。私の住んでいるところも、友達がいて、お店もたくさんありますが、他の人にお勧めできるかと聞かれると、自信がありません。

美浜町は自然が豊かで、食べ物も美味しいです。でもそれだけではあの言葉は言えないと思います。人が温かいから、それを住んでいる人たちが感じているからこそ言える言葉だと思いました。

「悪い人もおるぞ〜」と言われる方もいましたが、私はこの1年、そういう人に出会わなかった。美浜はええところ〜というのが私の美浜のイメージです！

美浜町に1年間滞在して自身に起こった変化について

最近、美浜弁が少しずつ口から出るようになったと思いきや嬉しかったのですが、出身地の神奈川県と言葉と混ぜているようで、周りの人からは「それどの言葉？」と聞かれます。

最初は美浜弁を聞いても意味も分からず、聞き返すことも多かったのですが、ようけの人に教えて、ようけの言葉を覚えられました！

●「しばらく〜」

ある方に「しばらく会ってなかったけど、えろなつたんか」と言われました。この「しばらく」は4日くらいで、私からすると「たった」4日と思いましたが、その方からすると4日「も」だったみたいです。自分のことを待っていたら、心配していただけのは嬉しく、ありがたいことだと思います。この1年間で、私もいつの間にか4日「も」になりました！

●「あ〜会いに〜うかな〜」

私は短大の頃から友人と遊んだりすることは少なく、出かける時も一人が多かったです。しかし、美浜に来てからは、帰りに寄ろうかなあ、今何をしているかなあ、と思うようになり、誰かのことを考える時間が増えたように感じます。

●イライラ

私は短気な方なのですが、美浜に来てイライラすることがあまりなかったように思います。いつイライラしたのだろうか……思い出せません。きっと美浜ののんびりした人柄や自然が豊かな環境に影響されたのかと思います。

●「一緒にご飯食べようね」

いつも誰かと食べていたわけではありませんが、美浜に来て一人でご飯を食べる時間が増えました。だから、この言葉を言っていただけのこととは嬉しかったです。改めて、誰かと一緒にご飯を食べると楽しいし、美味しい！と感じました。

町民の皆さんへのメッセージ

この美浜で過ごした1年は、初めてのことでばかりで、楽しいこともあれば、悩むことも同じくらいありました。その分、自分と向きあう時間もたくさんあり、私にとってこの1年は、これからの人生の中でも大切なものになり、大きな一歩となったと思います。

最後に！皆さんの年齢を聞いて驚くことが多かったです！元気で明るくて、いい意味で見た目と年齢があっていない感じで、そんな皆さんがいてくれたおかげで「私も頑張ろう

緑のふるさと協力隊 活動報告会を開催します
日時 3月3日(日) 午前10時30分〜
会場 はあとびあ
内容 緑のふるさと協力隊として、1年間感じたことを発表します。どなたでもお気軽にご参加ください。

※お問い合わせ先
町はまブランド開拓課
32-6714 (担当・渡辺)



※3月13日まで美浜におられますので、よろしくお申し込みください！

うー！と何度も元気をいただきました。これからお体に気を付けて、いつまでもお元気でいてください！この1年、協力隊を続けられたのは、たくさんの方の支えと温かい思いがあったからです。心から感謝の気持ちでいっぱいです。本当に素敵な1年をありがとうございました。また美浜に帰ってきます！



夏野菜の選別



『お母さんの落し物』



お世話になった佐野区の皆さん



花くず作り



頂き物



ホームステイ事業を通して生徒たちが感じたこと



美浜中学校 1年
高木 桂 さん

夏にホームステイをさせてもらった時は、会ったことのない人の家でホームステイするのはとても不安でした。しかし、台湾の人たちは優しく迎えてくれました。言葉も文化も違い、どう話したらいいかも分からなかったのですが、一日一日過ごしていくごとに仲が深まり、一日がとても短く感じ、7日間はあっという間に終わってしまいました。別れるときはとても悲しかったけど、日本に来たら、楽しんでもらえるようにしようと思いました。

今回、関西国際空港に向かう時は、やっと会えると思い、とてもワクワクしました。また、台湾に行った時に仲が深まっていたので、気持ちが楽でした。一番楽しかったのは3日間のホームステイで、みんなでケーキを食べたり、ビンゴゲームをしたり、とにかくパートナーと一緒にいる時間はすべて楽しかったです。

言葉が通じないのはとても大変だったけど、どのようにしたら伝わるか考えて、それが相手に分かってもらえる、とても嬉しかったです。

このような体験ができたのは、ホストファミリーと家族のみんなのおかげだと思います。最初は不安だったけど、今ではとても感謝しています。この思い出は、一生忘れず大切にしていきたいと思っています。



美浜中学校 2年
石丸 あいりさん

夏に初めて台湾へ行った時に、言葉も全く分からず、どうしていいか分からなくなっていた時に助けてくれたのはパートナーの子でした。初めて会ったのにもかかわらず、やさしく笑顔で私に話しかけてくれました。また、ご飯のときに、自分の分だけではなく、私の分までよそってくれたり、日本語で話そうと頑張ってくれたり、とても私に気を使ってくれました。それに、他の石門国民中学校の生徒やその家族、石門区役所の人たちも、向こうから私にしゃべりかけてくれて、たくさんの人と友達になりました。

私は、台湾で思いやりの大切さを学びました。初めは、そんなの簡単だろうと思っていましたが、パートナーの子が日本にやってきた時に、実際にやってみると、相手を思いやることは予想以上に大変でした。バスの中や、食事のときもパートナーの子を見て、色々と考えて動こうとすることはとても疲れました。けれど、自分が何か言ったり、したりしたことでパートナーの子が喜んでくれた時はとても嬉しかったです。

今回のホームステイ事業で、私が一番大切だと思ったことは思いやりの心です。その大切さをこれからの人生で生かしていきたいと思っています。家族や友達等にも今まで以上に思いやりの心を持って接し、誰とでも仲良くなれるような人になりたいと思いました。



台湾新北市石門区 ホームステイ

1月24日から30日までの7日間、昭和63年から姉妹都市提携を続けている台湾新北市石門区から、石門国民中学校の一行が美浜町を訪れました。

今回訪れた一行は、昨年8月に美浜中学校の生徒が石門区を訪問した際、現地で一緒に過ごした生徒16人と、学校・行政関係者の計21人です。

約半年ぶりの再会を果たした生徒たちは、ホームステイや美浜中学校での交流授業等を通して、友好を深めました。

▷生徒たちの主な日程

1月24日 (木)	お出迎え(関西国際空港)
1月25日 (金)	美浜町エネルギー環境教育体験館さいばす、レインボーライン、県立年縞博物館 ホームステイ1日目
1月26日 (土)	スキージャム勝山、越前和紙の里 ホームステイ2日目
1月27日 (日)	京都観光 ホームステイ3日目
1月28日 (月)	美浜中学校での交流授業
1月29日 (火)	テーマパーク体験(USJ)
1月30日 (水)	お見送り(関西国際空港)

